

麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 —麻生鳥のさえずり公園—

第25号 2009年6月30日発行 発行：麻生多摩美の森の会

発行責任者；間野 洋 編集者；木村 信夫

ごあいさつ

学齢期に達した麻生多摩美の森の会

会長 間野 洋

去る4月24日の第7回通常総会において当会の役員が新しくなりました。平成14年4月設立以来、7年間にわたって指導的立場で当会の基礎を築いていただいた勝田前会長、平林前副会長のお二人に心から感謝致します。

勝田前会長は、「当会は学齢期に達した」と活動報告書に述べておられます。

川崎市市民健康の森は平成10年に構想が作られました。この構想には、①緑の回復と保全、創出により市民の憩いの場となる森を作る。②この事業は市民と行政のパートナーシップで進める。③地域コミュニティの構築、再生を目指す、という3項目の基本理念があります。以降、この構想の検討委員会、推進委員会を経て10年余が経過しました。

去る2月、市民健康の森フォーラムが高津区で開催され7区による主催が一巡しました。この席で行政側から各区の健康の森も組織、活動において十分自立できる状態にあり、次年度より健康の森担当者を廃止する旨の説明がありました。今後は緑に関わるグループ、団体と共に（財）川崎市公園緑地協会のご指導を受けることになると思います。

以上のように当会も転機にあるわけですが、行政、近隣町会等のご支援を賜りながら会員各位のご意見を十分取入れ、楽しく自立した活動を続けて行きたいと思っております。今後とも皆様のご協力をお願い致します。

退任にあたって

前会長 勝田政吾

このたび、第7回通常総会で会長の交代を致しました。会が正式発足してから満7年、それに先立つ構想検討・推進両委員会の2年半を加えると足かけ10年、当市民健康の森に関わる責任者務めをしたことになり、全く長くて呆れるほどです。実はこれまで2度辞意を表したのですが後任が決まらず今までできてしまったもので、今回平林氏の転居にともなう副会長退任に便乗(?)して私もと申し出て、間野新会長にお願いすることになりました。

退任あいさつでは在任中の実績にふれるのが普通だと思いますが、どうしても自画自讃になりますので、二つだけ、近隣町会に呼びかけて賛助金をいただくようにしたこと、および遊歩道沿いの宅造開発問題に対し隣接町会の力を借りて市議会・市当局に働きかけ全体面積の1/3の緑地保全を実現したことを挙げさせていただき、その他は会員各位のご判断にお任せします。

会の通常活動では足りない面も多々あったと思いますが、会員各位の協力により大過なく過ごせたばかりでなく、極めて有能な両副会長の扶けで楽をさせてもらったものと感謝しております。

これからは、市民健康の森を現代の里山として自然、人間どちらの好む方向へ持っていくのか、両者をどう調和させていくかが課題だと思いますので、次期役員はじめ会員全体で考えていっていただきたいと思います。

■ 分科会・イベントの今後について（1）

会長 間野 洋

麻生多摩美の森の会は設立から7年が経過していますが、実際現地での活動に出席されている会員は当初より人員は減っており、また若い会員の入会が少なく高齢化が進んでいます。このため会員の皆様からのご意見は出ても、なかなか現地での作業が進んでいないのが現状です。掲題の件についての問題点、目標、工程等を作成し、急がず、楽しく、出来る範囲で活動を続けて行ければと考えています。

◆分科会について

本年度より従来の5分科会を、森づくりと動植物調査を統一し4分科会としました。

1、森づくり分科会

平成15年度末で現在の森の形が出来上がりました。今後どういう形で整備、管理していくかが課題です。

①麻生区市民健康の森推進計画書

平成13年3月に市民健康の森推進会議において計画書（ゾーニング、空間づくり含む）を麻生区長に提言しました。この計画に沿って森づくりが成された訳ですが、現時点では当森にそぐわない部分もあり、計画と現在の森を検証、修正し、今後の整備、管理の基本としたい（今年度末位を目標）。

②アズマネザサの整備

南側に位置するアズマネザサの藪は鶯のお宿であり、数年前よりここの整備については、方法論が確定せず、クズに覆われて現在に至っています。整備方法は試行錯誤しながら一步一步進める必要があります（2～3年計画で方法が決まれば開始したい）。

③広場西側斜面の下草刈り、他

ここも以前からの課題で人手不足のため手付かずのままです。年度ごとに区画を区切って時間をかけて進めざるを得ない（2～3年計画になるか）。また、管理棟を覆っている山桜の倒木に対応する必要あり。

2、畑の管理分科会

森づくりが始まった平成13年から無農薬での栽培が行われ、収穫された作物のほとんどは収穫祭で振る舞われ、また小学生の総合的学習の教材として供用されています（一部は収穫祭で格安で提供）。このようにこの分科会は巻頭

に述べた市民健康の森の基本理念③の地域コミュニティの構築に寄与する柱となっています。しかし冬作物、夏作物の経移時期は作業量が多く、天候にも左右されるため、例年苦勞が絶えないのが現状です。これを今後いかに解消していくか、作物の出来具合、種類、量の再検討も必要になってくると思われます。

3、施設工作分科会

課題であった水廻りの排水工事も8割ほど終了。排水については大雨時に於ける全体の排水計画（多摩美公園に抜けるアクセスに相当の雨水が溜まる）が必要となる。また施設については、藤棚下のテーブルの脚および椅子、ヤマユリ園の柵、カブト虫のお宿等の修復がさしあたりの課題です。

4、広報分科会

現在は、麻生区市民健康の森活動報告（年1回）、会報「麻生多摩美の森だより」（年4回）の発行、および当会の各種イベントの市政だよりなど他の広報誌への記事記載依頼などが主たる仕事になっています。数年前、当会のホームページ作成の機運が高まり会員のM氏にサンプルまで作成いただきましたが、完成することなく現在に至っています。ITの時代であり、①緑に関する当会の活動内容を広く市民の皆様にご覧いただき関心を持ってもらう、②若い会員を募る、③地域のコミュニティに積極的に参加してもらうことを目的に1年計画くらいで是非立ち上げたいと考えています。これには必要なパソコン教室の開設、必要資機材、費用等々の検討が必要となります。

☆☆☆ 以上、分科会の今後と問題点を私なりに列挙しましたが、他のご意見も多々あると思いますので、出していただいて皆で議論をしたいと考えます。いずれにしても2年間位を目途に目的をはっきり定め、優先順位を決め、大まかな作業工程を作って一步一步進める以外にないと思っています。

会員の皆様には現状をご理解いただき、活動日には多くの方のご参加を願っています。もちろん、活動については「自分で出来る範囲を自分で楽しく行う」がモットーです。

紙面の関係上、イベント他は次回に譲ります。

■「継続」こそ大きな力

麻生区地域振興課長 入口 茂

もう何年になりましょうか。市民健康の森の準備会的な管理組織のころからのお付き合いだったでしょうか。当時は、市の健康の森担当であった萩原さん、大谷さんと、私は麻生区のまちづくり担当として、井川さんとともに関わったのが最初でした。

当初は試行的な管理組織としてスタートしたばかりで活動内容も試行錯誤の連続だったようです。当時はアズマネザサの切り株が多く残っており、その上をたくさんの葛や雑草が繁茂し地面を覆っていました。現在の健康の森からはとても想像できない状態で、それらを取り除く作業の繰り返しでした。特に夏の暑い日の作業は大変な思いをした記憶があります。このような活動を長期間会員の皆さんが継続したお陰で、現在の健康の森の姿ができあがったものと思っています。

何しろ自然が相手ですから、時間の経過とともに草木は育ち森の景色も日々変貌していきます。維持管理活動が「継続」して行うことの意味がそこにあるのだと思います。健康の森の活動は、このような持続性、継続性がとても大切な活動となりますが、会員の皆さんの熱心さと真摯な姿勢、楽しく活動されていることに心配は不要のようです。健康の森の活動がどのような形であれ継続されることを切に願っていますが、実は「継続性」をどう担保するかが、分野を問わず様々な市民活動団体やグループの大きな課題となっていることも事実のようです。麻生区市民健康の森の活動ではどのような展開となるのでしょうか。今まで活動に参加させていただいた感想からは、皆さんで解決されるだろうことは容易に想像できます。

ここで平塚市での地域福祉活動の一事例を紹介しましょう。分野こそ違いますが、ここでのキャッチフレーズは、「できる人が」「できる時に」「できることを」「楽しくやろう」です。参考となりましょうか。さて、この4月から、今までと立場が変わってしまいましたが、これからも相変わらずの関係を今後ともよろしくお願い致します。

雨には降られたけれど満足な一日

…明治大学里山ボランティア報告

明治大学 倉本 宣

5月31日に、明治大学 M-Navi プログラム（学生に社会人基礎力をつけるための正課外プログラム）の一環として、里山ボランティアという催しを、麻生多摩美の森で開催させていただきました。うかがったのは学生21名、コーディネーターの野牛さん（川崎市公園緑地協会）、指導をお願いした清水さん、小林さん、宮下さん、大塚さん、須長さん（神奈川県森林インストラクター）、教職員の川嶋、倉本、伊与田、勝見の合計31名です。

森林インストラクターの指導で、午前中の1時間半は、北側の斜面の笹刈り、午後の30分余りは同じ場所の枝打ちを行いました。笹がどんどん刈られていくのは気持ちの良いことでした。大勢で作業することの楽しさを感じました。午後は断続的に雨が降り、樹木博士の検定するときには、ビニールシートの下で答を書くような状況になりました。樹木博士では1級になった学生が4名いました。

私はeラーニングの取材に対応していた時間が長くて、学生と一緒に作業をした時間は短かったのですが、今までのM-Naviで一番楽しかったという声も聞こえました。取材と一緒に受けた学生にとっては、畑が里山に変わったということが不思議なことのようでした。森の会の方が大変喜んでくださったことが印象的でした。



◆ 森の家周りへ砂利敷きと排水溝の整備 幹事 伊丹 伸行

多摩美の森には「森の家」と、その家の脇の少し高い位置に水道の蛇口が設置されています。水道は作業道具の水洗や、樹木への給水等に良く利用されていますが、排水が自然浸透によるため、大量の排水があると溢れてしまう難点があり、また森の家は雨が降ると周辺の泥が跳ね上がって、家の側壁を汚して美観を損なうという難点があり、その改良が望まれていました。



今回、その改良が計画され、排水に関しては、既存の排水桝に塩ビのパイプを接続し、そのパイプの先に、公園内に使われぬまま土に埋まっていた多数のU字溝を掘り出し、それを直線状に並べて繋ぎ、そこに向かって排水し、水が流れているうちに各U字溝の接続面の隙間からも浸透させる方式が考えられました。いっぽう、泥の跳ね返りについては、家の周辺に砂利を敷き詰めて防ぐ方策がとられる事になりました。

4月中旬に砂利や塩ビパイプ等の資材が運び込まれ、工事は4月下旬に始まり、排水桝周辺の整地と砂利敷設、並びにU字溝の施設は5月に完成し、期待した効果が得られるようになりました。家周辺への砂利敷きは7月に終わる予定です。

(編集室より：U字溝の運搬・敷設や砂利敷きなど、会員諸氏の重労働により継続中です。ご苦労様です)

● 今後の活動予定 副会長 中谷一郎

森でホトトギスが鳴いている季節になりました。楽しい里山公園をめざしますでよろしくお願ひ致します。

今後の活動予定は下記の通りです。

- 7月 4日(土) 麦の脱穀、ソバの播種
- 7月19日(日) 藤棚のテーブルの脚更新
- 8月 1日(土) 畑の手入、草刈り、その他
- 8月16日(日) 畑の手入、草刈り、清掃
- 9月 5日(土) 栗の収穫、その他
- 9月20日(日) 畑の手入、草刈り、清掃

この間の補助作業日は第2、第4水曜日ですが、雨以外は必ず作業しています。

また7、8月に夏の天体観測、秋に樹木観察会、10月には麻生プレーパーク、11月には植樹祭&収穫祭の予定です。



春の観察会：5月16日、自然観察指導員の高橋英さんを講師に、20人ほどの参加者で初夏の草木、花を楽しみました(写真はマユミの花の観察、ルーペも大活躍)。

★会員募集中—1度見学にお出てください。里山の楽しさを親子で味わってください。年会費1,000円。

★皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

問合せ、連絡先

間野 洋 044-966-7233

mano-h@jcom.home.ne.jp

木村信夫 044-954-7855

kimura-yatsu@nifty.com